

米國政府ヨリ分配スベキ臘肭獸皮ノ價格算定

二 關スル米國提議ニ同意ノ件

第六七七号

公第四八二号貴信ニ関シ客年八月二十四日以降同年中及本年中漁獲臘肭獸皮價格米國國務長官書翰ノ方法ニテ算定セラレ差支ナシ



事項八 「ニュー・ジールランド」ノ日英通商航海条約ヘノ加入勸誘一件

一一三 二月十七日

在シドニー清水精三郎領事ヨリ
本野外務大臣宛

ニュー・ジールランドノ日英通商航海条約ヘノ

加入勸誘ニ関シ請訓ノ件

機密公第二号

(三月二十二日接受)

大正七年二月十七日

在シドニー

総領事 清水精三郎 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

ニュー・ジールランド日英通商条約加入勸誘ニ

関スル件

大正五年九月一日付人送第三五号貴信ヲ以テ御許可相成候
本官ニュー・ジールランド出張ノ義ハ同年貴電第二二号ヲ以
テニュー・ジールランド首相ノ婦任マテ見合ハスヘキ旨御訓
示相成居候処同首相ハ客年六月中婦任相成候得共当館事務
ノ都合上出張難致事情ハ別信第一八号拙信中記載ノ通りニ
テ玉木官補着任ノ上ハ可成限差繰出張致度ト存候然ル処英

國政府ハ本年七月頃ヲ期シ重ネテ「イムピリアル、コンフ
アレンス」ヲ倫敦ニ開クヘキ予定ニテ濠洲新西蘭等首相ニ
参列ヲ促カシ来リタルニ就テハ何レモ来ル五六月頃出発ノ
心組被致居候様子ニ有之候

本官同地出張ニ関連シ大正五年十月九日拙電^(註1)第四三号ヲ以
テ具申シタル卑見ニ関シテハ同月十日貴電^(註2)第二二号ヲ以テ
首相ノ婦任マテ同地出張見合ハスヘキ旨御訓令ノ外其後何
等御垂示無之ニ付倫敦ニ於テ「ニュー・ジールランド」日英
条約加入勸誘ノ件ハ何等思ハシキ發展無之義歟ト被存得共
本官参考トモ可相成義有之候ハハ同地出張以前承知致置度
候間折返シ御垂示相仰度此段及具申候 敬具

追テ今回首相マッシー (The Right Hon. W. F.

Massey, P. C. 改進黨首領^{リフトォーム、ペーティ})ハ多分大藏大臣ワード氏

(The Right Hon. Sir J. G. Ward, P. C., K. C. M.

G. 自由黨首領^{リベラル、パーティー})同伴渡英ノ様子ニ付ニュー・ジールラン

ド条約加入ノ義幾分ニテモ嚬望ノ余地有之候ハハ右一行
倫敦滞在中我駐英大使ヨリ勸誘相成候方最モ有効ニ可有

之様被存右副テ申進候

註 1 日本外交文書大正五年第一冊一九三文書

2 同右一九四文書

一一四 四月三日 本野外務大臣ヨリ
在シドニー清水総領事宛(電報)

ニュー・ジールランドノ日英通商条約ヘノ加入

問題ニ関シ回訓ノ件

第七号

機密公第二号貴信ニ関シ本件ハ未ダ英国政府ニ開談ノ運ヒ
ニ至リ居ラズ依テ貴官新西蘭当局ト会見ノ際右御含ヲ以テ
本件ニ関スル先方ノ意向御探索ノ上結果回報アリタシ

一一五 五月十四日 在シドニー清水総領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

新西蘭首相及蔵相ニ日英通商条約ヘノ加入方

ニ付申入レタル件

第二〇号 (五月十五日接受)

五月二日新西蘭首相 W. F. Massey 大蔵大臣 Sir Joseph
Ward ニ会見シ日英条約加入ヲ勧誘シタルニ何等異議ナク
多大ノ同情ヲ表示シ特ニ考量ヲ加フヘキコトヲ約サレタリ

於テ直接新西蘭首相蔵相ニ御会見ノ上本件ニ関シ御懇談ヲ
遂ケラルル様致度シ
本電シドニーニ転電アリタシ

一一七 六月十五日 在シドニー清水総領事ヨリ
後藤外務大臣宛

新西蘭ノ日英通商航海条約ヘノ加入方ニ関シ

首相及蔵相ニ申入レタルニ付詳細ノ件

附記 濠洲(及新西蘭)ノ日英通商航海条約ヘノ加入
方勧誘ニ関スル交渉順未調査

機密公第七号 (七月十八日接受)

大正七年六月十五日

在シドニー

総領事 清水精三郎(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

新西蘭日英通商航海条約加入勧誘ニ関スル件

本件ニ関シ去四月三日貴電第七号ヲ以テ御来訓ノ趣敬承然
ル処新西蘭首相 W. F. Massey 及大蔵大臣 Sir Joseph
Ward (連立国家的内閣成立迄反対党ノ首領)ノ両氏ハ倫
敦ニ開カルヘキ Imperial Conference ニ列席ノ為メ四月

八 「ニュー・ジールランド」ノ日英通商航海条約ヘノ加入勧誘一件 一一七

一九九

両氏ハ Imperial Conference ニ参加ノ為倫敦ニ向ケ出発
ニ臨ミ居ルニ付航海中研究ヲ遂クヘシトノコトニ付倫敦ニ
於テ我大使ヨリ本件ニ関シ両氏ニ開談ヲ求ムル場合ニ於テ
ハ同地ニテ談判ヲ進行セラレタシト申込ミタルニ之ヲ快諾
セラレタリ両氏ハ六月初旬倫敦着約六週間滞在ノ予定又濠
洲首相及海軍大臣モ前記両氏ト同行渡英ノ途ニ就キタリ
註 五月十六日後藤外務大臣宛清水総領事宛電報第一〇号ヲ以テ
右電報ヲ在英珍田大使ヘ転電アリタキ旨訓令セリ

一一六 五月十七日 後藤外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

新西蘭ノ日英通商航海条約ヘノ加入問題ニ関

シ英國政府ノ好意的斡旋依頼方並新西蘭首相

蔵相ト懇談方訓令ノ件

第二五一号

在シドニー総領事宛本大臣宛電報第二〇号ニ関シ新西蘭ニ
於テ日英条約ニ加入スルニ於テハ濠洲加入問題ノ解決ニ有
利ナル影響ヲ与フヘキニ付新西蘭首相及蔵相貴地着ノ上ハ
大体濠洲加入問題ト同一ノ方針ニ拠リ同領地日英条約加入
方ニ関シ英國政府ノ好意的斡旋ヲ求メラルルト共ニ貴官ニ

末頃出発渡英ノ途ニ上ルヘキ予定ノ由予テ内聞致居候ニ付
御来訓接到早々電報ヲ以テ前記両氏ニ会見ヲ申込ミ其回答
ニ依リ「オー克蘭ランド」市ニテ会見スル手筈ヲ定メ本官同
市ニ向ケ出張致其会見ノ結果ハ出張先ヨリ総領事館ニ郵送
シ五月十四日拙電第二十号ヲ以テ発電致タル義ニ有之候
会見ノ結果ハ右拙電中可成詳悉致置候義ニ有之候得共尚右
ニ関スル本官ノ感想ヲ追述センニ両氏トモ本件ノ応対上誠
実真摯ノ氣宇言外ニ顯ハレ濠洲官憲カ事ニ托シ辞ヲ設ケテ
可成該問題ヲ逃避セントスルノ模様アルモノト自ラ其選ヲ
異ニシ帝國ノ日英同盟ニ対スル至誠ノ真意ハ深ク之ヲ諒認
シ且ツ通商貿易ニ関シテハ戦争中ハ勿論戦後ニ至リテモ益
提携シテ相互ノ利益ヲ増進致度トノ希望ヲモ洩ラシ本官ノ
勧誘ニ対シ何等ノ異議ヲモ挾マス多大ノ同情ヲ以テ大体上
全然賛同ノ意ヲ表シタル義ニテ日英通商航海条約ノ各項ハ
渡英ノ途上篤ト研究致度トノ事ニ付本官ハ携帯セル英文同
上条約文ヲ交付致置候義ニ有之候

然ル処本件ノ進行ニ関シ聊カ懸念セルコトハ前記拙電中附
記ノ通り右両氏ハ濠洲首相ヒュース及海軍大臣クックノ両
氏ト同伴渡英セル一事ニ有之若シ前両氏カ後両氏ニ本問題

ヲ内話セラルルコトアラバ後者ハ新西蘭カ条約参加ノ場合ニ於テハ濠洲ノ立場ヲ困難ナラシムヘキヲ虞レ詭弁ヲ弄シテ前者ノ意気込ヲ冷却セシムル様ノ事ナカルヘキヤ此一事ハヒュース氏ノ性格ヨリ推考シテ其必無ヲ期スベカラザル義ト被存候依テ本官ハ予防ノ微意ヲ以テ交渉中左ノ趣意ヲ附言致置候

我方ニ於テハ濠洲モ亦該条約ニ加入センコトヲ希望シ該政府ニ交渉中ナルガ濠洲ノ国情ハ一種特別ノ廉アリテ未タ解決ノ運ヒニ至ラザルモ新西蘭ハ開戦以降挙国一致ノ美質ヲ發揮シ濠洲ニ於ケルカ如キ特別ノ事情無之ハ勿論該条約加入ノ結果ハ将来通商航海海上相互ノ利益ヲ齎スヘクシテ何等懸念ノ虞ナカルヘキハ多年來加奈太領条約加入ノ結果ニ照スモ明白ナル義ニ付濠洲ノ成行如何ニ拘ハラズ新西蘭ハ此際速カニ加入セラレンコトヲ翹望ス云々濠新西蘭ハ均シク英領タルモ両者ノ間多少互ニ嫉視ノ気味合モ相見候ニ付特ニ此事情ニモ顧ミ前記ノ趣旨ヲ力説致置候義ニ有之候

前記会見ノ後本官ハ首府ウェリントンヲ始メ「クライストチャーチ」「ダニーデン」等ノ諸要市巡回広ク重立ノ官民

ニ接触シ視察ヲ遂ケ候ニ付別ニ詳細報告書提出可致候得共対日感情及一般ノ人氣等ニ関シ前段ニ記載セル感想ヲ一層確認シタル感有之候
右及報告候 敬具
本信写送付先 珍田在英大使

(附記)

濠洲(及新西蘭)ノ日英通商航海条約ヘノ加入方勧誘ニ関スル交渉顚末

大正十年十二月二十八日

通商局総務課調査

目次

第一章 緒論

第二章 日英通商条約ノ規定ト濠洲ノ法令ト衝突スル諸点

第一節 入国、旅行及居住ノ自由

第二節 営業ノ自由

第三節 沿岸貿易

第四節 関税

第五節 土地所有權及賃借權

第三章 交渉經過概要

第一節 倫敦ニ於ケル交渉

第二節 濠洲ニ於ケル交渉

第四章 彼我ノ意向

第一節 帝国政府ノ希望

第二節 濠洲側ノ意向

第五章 新西蘭ニ対スル交渉

第六章 結論

第一章 緒論

明治四十四年四月調印セラレタル現行日英通商航海条約第二十六条ニ曰ク「本条約ノ規定ハ批准書交換ノ日より二年以内ニ大不列顛国皇帝陛下ノ海外ノ領土、殖民地、属地又ハ保護領ノ何レカノ為大不列顛国皇帝陛下ノ東京駐劄代表者ヨリ加入ノ通告ヲ為スニ非ザレバ右領土、殖民地、属地又ハ保護領ノ何レニモ適用セラルコトナシ」ト而シテ本条ノ規定ニ依リ加奈陀、「ニュー・フォンドランド」、海峡殖民地及錫蘭竝多数ノ英国直轄殖民地及保護領ハ既ニ同条約ニ加入シタリト雖濠洲連邦ハ未ダ之ニ加入セズ然ルニ濠洲ト本邦トノ通商關係ハ漸次密接ヲ加ヘ殊ニ大正三年世界大戰勃発以來ハ一方ニ於テハ彼我貿易額ノ増加更ニ著シ

キモノアルト共ニ他方ニ於テハ濠洲ニ於ケル従前ノ排日氣風大ニ緩和セラルルヲ見タルヲ以テ帝国政府ニ於テハ此ノ機ニ乘ジ濠洲ヲシテ日英通商航海条約ニ加入セシメント欲シ大正四年初勧誘ヲ開始シタリ尤モ前掲日英条約第二十六条所定ノ通告ニ依リテ加入セシムルニハ同条約ノ批准交換後二年以内タルコトヲ要スルヲ以テ既ニ其ノ時期ヲ失シタレバ同条所定ノ通告ニ依ル能ハズ故ニ新ニ日英間ノ協定ニ依リテ濠洲ヲシテ日英条約ニ加入セシメントノ意向ナリキ然ルニ濠洲ニ於テハ所謂白人濠洲主義ノ政策ニ基キ東洋人ニ対シテハ白人ニ比較シテ不利ナル差別的待遇ヲ与ヘ居ルヲ以テ此ノ差別的待遇ヲ規定セル濠洲ノ法令ト日英通商条約ノ規定ト相容レザル点少カラズ随テ濠洲ヲシテ日英通商条約ニ加入セシメントスル提議ハ濠洲政府ノ歡迎スル所ト為ラザリキ

第二章 日英通商条約ノ規定ト濠洲ノ法令ト衝突スル諸点

日英通商条約ノ特惠の規定ト濠洲法令ノ差別的規定ト衝突スル点如何是レニ関シテハ本件交渉ニ関スル記録中ニ纏リタル調査ナキモ大正十年七月欧米局印刷ニ係ル調査書「濠

洲ニ於ケル日本人ノ權利及自由ニ対スル制限」アルヲ以テ今該調査書ト日英通商条約トヲ比較対照シテ觀テ左ニ両者ノ衝突点ヲ指摘シ且其ノ中特ニ本件交渉中ニ於テ問題トナリタルモノニ付テハ之ニ関スル交渉ノ經過ヲモ附記スヘシ

第一節 入国、旅行及居住ノ自由

第一、日英通商条約ノ規定

日英通商条約ハ其ノ第一条冒頭ニ於テ両締約國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版図内ニ入国、旅行又ハ居住スルノ自由ヲ有スル旨ヲ規定シ且同条第一号ニ於テ旅行及住居ニ関スル内国待遇ヲ規定セリ

第二、濠洲法令ノ規定

濠洲ニ於テハ其ノ移民法ヲ以テ本邦人ノ入国居住ヲ制限セリ其ノ要点左ノ如シ

濠洲移民法ニ依レハ「書取試験」ニ及第セザル者ハ入国スルコトヲ得ズ (Immigration Act, 1901—1920, S. 3 (a)) 而シテ現行規定ニ依レバ何人モ濠洲當該官憲力選定スル或歐洲語ニテ五十語ヲ下ラザル書取試験ヲ行ヒタル場合之ニ及第スルニアラザレハ濠洲ニ入国スルヲ得ズ然レドモ實際ノ慣例ニ於テハ白人ニ対シテハ書取試験ヲ行ハザルヲ常ト

ニ於テハ個々ノ家族呼寄出願ニ付詮議シ品性其ノ他ニ異議ヲ認メザル場合ハ先ツ六ヶ月ノ滞在ヲ許可スルヲ常トシ或ハ更ニ六ヶ月滞在ノ延期ヲ許シタルコトアルモ永住ハ許サズ蓋シ家族呼寄ニ対シテ斯ノ如キ制限ヲ設ケタルハ有色人ノ渡来又ハ出生ニ依ル人口増加ヲ防止スルヲ目的トスルモノニシテ特ニ六ヶ月ノ短期ニ限りタルハ家族力滞在中ニ分娩スルヲ防カントシタルモノナレハナリ

(二)明治三十七年ノ特別取極ニ依ル商人、学生及漫遊者

此ノ取極ニ依レハ日本人タル商人、学生及漫遊者ハ一定ノ条件ヲ具ヘタル旅行免状ヲ所持スルトキハ書取試験ヲ課セラルルコトナク自由ニ濠洲ニ入国スルコトヲ得此等ノ者ニシテ十二ヶ月以上濠洲ニ滞在セント欲スル場合ハ其ノ到着後十二ヶ月以内ニ予定滞在期間ニ対スル免除証書ノ下付方ヲ其ノ理由ヲ附シテ出願スルコトヲ要ス其ノ許否ハ一ニ連邦政府ノ裁量ニ属ス

特別取極ニ依ル入国者殊ニ商人ノ滞在許可ハ幾年間更新セラレ得ベキカハ明確ナラズ一九一〇年七月連邦政府ハ此等ノ人々ニ無制限ノ滞在ヲ許シ得ザル旨ヲ明示セリ商人、学生及漫遊者ノ妻又ハ子ガ夫又ハ父ト連名ノ旅券ヲ

ス即チ書取試験ハ連邦政府ガ教育ヲ試験スルニアラズシテ唯相手ヲ侮辱セズシテ排斥ノ目的ヲ達スル手段タルモノナリ尤モ書取試験ニ依ル入国制限ニ対シテハ二個ノ例外アリ即チ

一 書取試験免除証書ヲ有スル者 (S. 3 (h).)

二 明治三十七年ノ特別取極ニ依ル商人、学生及漫遊者 (一)書取試験免除証書ヲ有スル者ハ次ノ二ナリ

一 永住権者

濠洲内ニ一期間又ハ数期間前後相通シテ五年以上居住スル者ハ濠洲ヲ去ル時証明書ニ規定セラレタル期間内連邦ニ再渡航スル場合書取試験ノ適用ヲ免除セラルヘキ証書ヲ請求スルコトヲ得 (S. 4 (h).) 之ヲ仮ニ永住権者ト称ス

二 永住権者ノ家族

在留永住権者ノ家族ハ一九〇三年七月二十七日マテハ外務大臣ノ承認ヲ得タル場合ノ外ハ原則トシテ入国スルコトヲ得ズ唯特ニ免除証書ヲ下付サレタル者ハ此ノ限ニ在ラズ (S. 3 (h), S. 4.) 而シテ永住権者ノ家族カ連邦政府ノ特ニ発給セル免除証書ニ依リテ入国セル実例ヲ按スルニ政府

携帯シテ之ト同伴シ来ル場合ハ其ノ入国ニ関シ何等ノ制限ヲ受ケズ

此等ノ者ノ妻又ハ子カ单独ニ渡航スル場合ニ関シテハ何等ノ明文ナシ故ニ其ノ入国ニ関シテハ個々ノ場合ニ付テ特ニ連邦政府ノ承認ヲ受クルヲ常トセルガ連邦政府ハ此等ノ場合ニ対シテハ各個ノ事情ニ依リテ区々タル取扱ヲ与ヘ居レリ

此等ノ者ノ親ノ呼寄ニ付テハ明文ナク一九一八年十月連邦政府ハ或在留本邦商人ノ親ノ呼寄ヲ先例ト為サザル条件ノ下ニ許シタルコトアリ

此等ノ者ノ下婢ノ呼寄ニ付テモ明文ナシ大正七年在「シドニー」総領事カ連邦政府ト交渉セシトキ連邦政府ハ差当リ「シドニー」ニ於テ小児ヲ有スル五家族ニ限り許可ヲ与フヘキモ木曜島、「ケーンス」又ハ「ブルーム」等ノ地方ニ洩ルルトキハ多大ノ難題ヲ惹起スヘキ故秘密ニ附セラレタキ旨ヲ申越セリ

之ヲ要スルニ濠洲移民法ハ書取試験ノ名目ノ下ニ本邦人其ノ他一般有色人ノ入国ヲ防止シ唯同法施行前ヨリ濠洲ニ在リタル者ニ対シテハ其ノ既得権ヲ認メテ一旦出国シタル後

再入国スルヲ許スト雖而モ尚スカル者ノ家族ノ呼寄ニ対シテハ其ノ滞在ヲ六ヶ月ニ限ルヲ以テ折角濠洲ニ永住スルノ權利ヲ得タル者モ其ノ家族ト共ニ永住スル能ハザルコトトナリ甚シキ不便苦痛ヲ忍バザルヘカラズ而シテ右ハ主トシテ有色人労働者ノ入国及増加ヲ防クヲ目的トスル規定ナルガ労働者以外ノ本邦人即チ商人、学生及漫遊者ニ関シテハ特ニ明治三十七年ノ取極ニ依リ其ノ入国ヲ許スモ其ノ滞在ヲ十二ヶ月ニ制限シ其ノ更新ヲ許スモ永住ヲ許サズ又此等ノ者ノ家族及婢僕ノ呼寄ニ対シテモ制限ヲ附シタリ

第三、本件交渉中ノ問題

上記ノ如ク濠洲ニ於テハ有色労働者ノ入国ヲ絶対ニ防止スルト共ニ労働者以外ノ本邦人即チ商人、学生及漫遊者等ニ対シテモ単ニ一定期間ノ滞在ヲ許スノミニテ永住ヲ許サズ而シテ帝國政府ニ於テハ多年濠洲ニ移民ヲ送ラザル方針ヲ取り来リ今後モ濠洲ニ移民ヲ送ルノ意思ナク帝國政府ノ欲スル所ハ唯本邦商人等ノ入国永住ノ自由ヲ得ンコトニ在リキ仍テ本件交渉ニ当リテモ最初ヨリ右ノ意思ヲ宣明シ且濠洲政府ニ於テ此ノ点ニ関スル保証ヲ得ンコトヲ希望セバ加奈陀ニ於ケル場合ト同様ノ保証ヲ与フルニ躊躇セサル旨ヲ

通知スル所アリキ而シテ大正五年三月倫敦ニ於テ在英井上大使カ濠洲首相「ヒュース」ト面談シタル際ニモ井上大使ハ此ノ点ニ関シテ言明スル所アリシガ「ヒュース」ハ移民ト通常商人トヲ區別スル標準ヲ見出スコト困難ナリト唱ヘタルヲ以テ井上大使ハ此点ハ實際ニ付別ニ解決ノ方法ヲ講スルヲ得ヘシト答ヘタリ

第二節 営業ノ自由

第一 日英通商条約ノ規定

日英通商条約ハ商業及製造業ニ関スル内国待遇（第一条第二号）、商工業者及旅商ニ関スル最惠国待遇（第十二条）並産業、生業、職業及修学研究ニ関スル最惠国待遇（第一条第三号）ヲ規定スルノミナラズ更ニ進ンテ保稅庫入ノ便益、奨励金及戻税ニ関スル内国待遇（第一条第八号）ヲ保証セリ

第二 濠洲法令ノ規定

之ニ反シ濠洲ニ於テハ東洋人ニ対シ直接間接ニ営業ノ自由ヲ制限スル法令少カラズ左ニ之ヲ列記スヘシ

一 商業及製造業

現在在留本邦商人ハ事実上自由ニ生産物及製造物ノ卸売及

小売ニ従事シ内国人又ハ外国人ニ比シ何等ノ差別的取扱ヲ受ケズ又製造業ニ関シテモ各州法規ハ社会ノ安寧福祉ニ反セザル限りハ自由ニ開始ヲ許スヲ常トシ内外国人ニ対スル差別的取扱ノ慣行アルヲ聞カズ唯何人ノ経営ニ係ルモ其ノ使用スル労働ニ関シテハ各州法規ハ白濠主義ニ基ク幾多ノ制限ヲ有ス例ヘハ各州ニ於テ工場法適用上其ノ所謂工場ヲ定義スルニ当リ被用者ノ白人ナルト支那人又ハ亜細亞人ナルトニ依リテ差別ヲ設ケ西濠洲及「クインズランド」兩州ハ模造牛酪 (Margarine) ノ製造ニハ欧羅巴人種及濠洲土人以外ハ書取試験ニ及第スルニアラザレハ従事スルコトヲ許サズトシ (Margarine Act, 1910, Qld., S. 2B.) 「クインズランド」州砂糖栽培法ハ何人ト雖書取試験ニ合格シタル者ニアラザレハ糖業ニ従事スルコトヲ許サズト規定シ又連邦政府カ産業奨励金ヲ下付スルニ当リテ特ニ白人労働ヲ条件トセルカ如シ右ノ中製糖労働及産業奨励金ニ付テハ項ヲ改メテ述フヘシ

二 製糖労働

一九一二年ニ至ルマデハ連邦立法ヲ以テ白人労働ニ限り奨励金ヲ下付スル旨ヲ規定シタリシガ同年連邦ハ之ヲ廢止シ

テ更ニ「クインズランド」州立法ニ有色労働排斥法ノ制定ヲ譲リ同州ハ之ニ從ヒテ一九一三年 State Sugar Cultivation Act, Sugar Growers Act, Sugar Growers' Employees Act 等ヲ制定シタリ而シテ右「ク」州砂糖栽培法ハ表面上何等人種の差別ヲ規定セザルモ(一)何人ト雖書取試験ニ合格シタル者ニアラザレバ糖業ニ従事スルコトヲ許サザルコト(二)現ニ土地ヲ占有シテ糖業ニ従事セルモノニシテ書取試験ニ合格スルコト能ハザリシ者ニ対シテハ相当ノ補償ヲ与フルコト及(三)州知事ハ書取試験ヲ課スル必要ナシト認メタル者ヲ本法ノ適用ヨリ除外スルノ規定ヲ設クルヲ得ルコトヲ規定スルノミナラス同法制定ニ至ル経過及議會ノ

議事録等ニ徴スルモ同法ノ目的カ有色人排斥ニ在ルコト明白ナリ而シテ同法施行細則ニ於テハ白人タル欧米人並「ク」州ト条約關係ヲ有スル伊、露及「コロンビア」三國人ヲ同法ノ適用ヨリ除外シ事実上其ノ適用ヲ有色人ノノミ局限シ有色人ハ唯僅ニ(イ)英國トノ間ニ最惠国条款アル条約ヲ有スル国ノ人民(ロ)永ク濠洲又ハ「ク」州ニ居住スル者(ハ)「ク」州ニ居住シ且適法ニ結婚シ又ハ家族ヲ有スル者若ハ(ニ)其ノ他農務大臣ニ於テ満足スヘキ事情ヲ有スル者ハ農務大臣ニ

於テ免除証書ヲ発給シテ其ノ適用ヨリ除外セシメ得ルコトトシタリ (Regulations, 1913, S. 3, Nos. 1—7.) 故ニ有色人ハ免除証書ノ交付ヲ受クルコトニヨリテノミ就業シ得ルコトナリタルガ而モ(イ)免除証書ヲ下付スルハ一九一三年中甘蔗耕作ニ従事シタル者ニ限ルコト及(ロ)同年中ノ従業者ニテモ耕地労働者ト製糖所労働者トニ區別シ後者ニ対シテハ免除証書ヲ与ヘザルコトノ内規アリシト云フ而シテ一九一三年砂糖栽培法ニ依リ免除証書ノ発給ヲ受ケタル者ハ僅カニ三百五十五人ナリシガ其ノ後更ニ減シ現今ハ僅カニ百九十五人ニ過ギザルモ労働組合ハ常ニ之ヲモ驅逐セント企テツツアル趣ナリ

三 産業奨励金

日英通商条約ハ前述ノ如ク保税庫入ノ便益、奨励金及戻税ニ付テモ内国待遇ヲ規定スルニ反シ濠洲ニ於テハ書取試験ノ制度等ニ依リテ直接ニ東洋人ノ企業又ハ労働ノ自由ヲ制限スルノミナラズ産業奨励金ニ付テモ東洋人ニ差別的待遇ヲ与ヘ以テ間接ニ其ノ企業又ハ労働ノ自由ヲ制限セリ即チ左ノ如シ

(イ)連邦政府ハ一九〇七年 Bounties Act ヲ制定シ棉、纖維

植物、植物性油原料、米、護謄、珈琲、煙草、魚(罐詰用)、果物、Combed wool 及「トップ」等ノ生産若ハ製造ニ対シ一定期間一定金額ノ産業奨励金ヲ下付スルコトヲ規定シタルガ其ノ下付ノ条件トシテ其ノ生産又ハ製造ハ白人労働ニ依ルコトヲ要スト規定セリ此ノ法律ハ一九一二年十二月二十四日一部改正セラレタルモ右ノ要件ニハ何等ノ変更ヲ見ザリキ (Bounties Act, 1907, ss. 3, 4; Bounties Regulations, 1908, S. 2.)

(ロ)一九一二年「バルブ」及燐鉱石生産奨励法亦奨励金下付ノ条件トシテ白人労働ヲ必要トセリ (Wood pulp and Rock phosphate Bounties Act, 1912, ss. 4, 5.)

(ハ)一九一八年林檎生産奨励金法制定セラレタル由ナルモ其ノ内容ヲ詳ニセズ

四 自由職業 (Liberal Professions)

(イ)医師及齒科医

各州医師及齒科医開業ニ付テハ法令ノ文面ニハ何等人種の排斥ノ規定存セザルモ医師登録ヲ承認スル權限ヲ有スル各州医師会又ハ齒科医会ハ開業医師又ハ齒科医中ヨリ選挙又ハ任命ニ依リ選定組織セラルルヲ以テ彼等ハ自家ノ利益上

同業者ノ入来ヲ拒止セントスル態度アリ故ニ日本医師ノ濠洲ニ於テ開業セントスル者ハ先ツ入国居住ノ特別許可ヲ得タル上各州医師法ニ依リ醫師会ノ承認ヲ得ザルベカラザルガ實際ノ慣行ニ於テハ日本医師ニシテ英國醫師法ニ登録セル者ハ其ノ承認ヲ得ルコト左程困難ナラザルニ似タルモ我カ専門学校卒業ノ医師ガ直接濠洲ニ於テ開業セントシタルニ対シ醫師会ニ於テ拒止シタル先例アリ

(ロ)弁護士

弁護士ノ資格承認ニモ醫師法ノ如ク英國及濠洲ノ教育ヲ特認スル傾向アリ

五 漁業及採貝業

一国ノ領海ニ於テ漁業ニ従事スルコトハ之ヲ外国人ニ許サザルヲ通例トシ我國ニ於テモ現行漁業法ハ帝国臣民ニアラザレハ我領海ニ於ケル漁業權ヲ享有シ得ザルモノトス(漁業法第七条)而シテ斯卡ル權利ヲ外国人ニ与フルハ多クハ条約ヲ以テス例ヘハ日露条約ニ依リテ日本人カ日本海ニ於ケル露國領海ノ漁業權ヲ獲タルカ如シ濠洲領海内ノ漁業ニ関シテハ各州ノ法規一様ナラズ「クインズランド」州ニ於ケル真珠貝採取及海鼠漁獲ニ付テハ漁船又ハ採貝船ノ免許

ハ生来ノ英國臣民、歸化人、「ク」州「デニゼン」(denizen)又ハ此等ノ者ノミヨリ成ル法人ニアラザレバ之ヲ受クル能ハザル旨ヲ規定スルモ (The Pearl-shell and Bêche-de-Mer Fishery Acts Amendment Act of 1898, S. 2.) 漁業又ハ採貝借区ノ免許ニ付テハ特ニ英國臣民等ニ限ルコトヲ規定セズ単ニ州知事ニ於テ其制定スル細則ニ從ツテ之ヲ許与スルノ權限アルコトヲ規定スルノミナリ (The Pearl-shell and Bêche-de-Mer Fishery Acts Amendment Act of 1891, S. 16; the Pearl-shell and Bêche-de-Mer Fishery Acts Amendment Act of 1913, S. 4.)

而モ船ニ付テモ借区ニ付テモ書取試験ニ及第スルニアラザレバ其ノ免許ヲ受クル能ハス且書取試験ノ國語選定及書取試験免除等ハ總テ州知事ニ於テ決定シ得ルヲ以テ (The Pearl-shell and Bêche-de-Mer Fishery Acts Amendment Act of 1913, S. 7.) 就業ノ許否ニ当局ノ自由ニ決シ得ル所ナリ

六 鉱業

鉱業權モ我國ニ於テハ帝国臣民ニアラザレバ之ヲ享有スルヲ得ズ(鉱業法第五条砂糖法第二十三条)濠洲ニ於テモ各

州其ノ法律ヲ以テ鉱業ニ関シ有色人ニ対シ制限ヲ規定スル所アリ

第三 本件交渉中ノ問題

濠洲ニ於ケル本邦人ノ営業ノ自由ハ入国居住ノ自由ト共ニ本件交渉ニ於テ帝國政府力獲得セント欲シタル主タル目的ニシテ随テ交渉中数次其ノ旨ヲ言明スル所アリシモ敢テ營業ノ種類ヲ指示シテ帝國政府ノ要求ヲ具體的ニ説明シタルコトナシ

第三節 沿岸貿易

第一 日英通商条約ノ規定

沿岸貿易ニ関シテハ日英通商条約第二十一条ニ「両締約國ノ沿岸貿易ハ本条約ノ規定スル限ニ在ラズ日本國及連合王國各自ノ國法ニ定ムル所ニ依ル但シ締約國ノ一方ノ臣民及船舶ハ本件ニ関シ他ノ一方ノ版図内ニ於テ最惠國待遇ヲ享受スヘキモノトス云々」ト規定セリ

第二 濠洲法令ノ規定

連邦航海法ハ多年討議ノ後労働党内閣ノ下ニ一九一二年十二月二十四日両院ヲ通過シ翌年十月二十四日英國皇帝ノ裁可ヲ經タルガ該法ニ対シテハ英本國及外國政府並當業者間

郵船会社船舶ノ沿岸貿易ニ從事シ得ル機会極メテ少カラントスト云フ)

第三 本件交渉中ノ問題

本件交渉ノ初期ニ於テ濠洲首相「ヒュース」ガ英國外相「グレー」ニ対シ予メ日本政府ノ同意ヲ得ント欲スルコトトシテ挙ケタル四個ノ条件ノ一ハ日本船舶カ濠洲ニ於テ沿岸貿易ニ從事シ得ザルコトナリシガ大正五年三月在英井上大使ガ「グレー」外相ニ面会シタルトキ同外相ハ此ノ旨ヲ述ヘタルヲ以テ井上大使ハ外國商船ノ沿岸貿易ハ日本ニ於テモ國法上禁シ居ル様記憶スレバ濠洲首相ノ希望ハ無理ナラズト思フモ抑々所謂沿岸貿易トハ何レノ地域内ヲ指サヤト尋ネタルニ「グレー」ハ目下濠洲ニテ占領中ノ独領諸島ガ戦後濠洲ノ有トナルノ仮定ノ下ニ右区域ハ赤道以南トシタシト答ヘタルヲ以テ井上大使ハ左スレバ日本モ亦同様ノ仮定ノ下ニ赤道以北ノ日本各港ノ沿岸貿易ヲ濠洲船舶ニ対シ禁止スルヲ欲スルヤモ計リ難シト述ヘタルニ首相ハ其ハ固ヨリ致シ方ナシト答ヘタル趣ナリ

右交渉當時ニ於テハ濠洲航海法ハ既ニ英國皇帝ノ裁可ヲ經居タルモ未タ実施サレズ日本郵船会社ハ木曜島、「タウン

ニ利害關係上異議アリ英本國及日本其ノ他ノ外國政府ヨリ抗議ヲ提出セシト英本國及各州ノ法規又ハ官制ト抵触スル所アルトニヨリテ容易ニ実施セラルニ至ラズ一九一九年改正ノ後其ノ一部ヲ実施シ一九二〇年更ニ改正ヲ加ヘテ翌一九二一年七月一日ヨリ同法中約九十ヶ条ヲ實施スルコトトナレリ沿岸貿易ニ関スル条項ハ其ノ中ニ在リ

連邦航海法ニ依レハ凡テ船舶カ濠洲若ハ其ノ領土ノ一港ヨリ他港ニ到達スヘキ人又ハ貨物ヲ運送スル場合ハ之ヲ沿岸貿易ニ從事スルモノト看做シ原則トシテ免許ヲ得タル者ニアラザレハ之ニ從事スルコトヲ得ズ唯濠洲以外ノ地方ヨリ通切符ニ依リ濠洲ノ一港ヲ通過シテ他港ニ行ク乗客又ハ通船荷証券ニ依ル同様ノ貨物及郵便物ヲ運送スル場合ハ沿岸貿易ト見做サズ但シ連邦總督ハ勅令ヲ以テ濠洲以內ノ一港ヨリ他港ニ人又ハ貨物ヲ運送スル場合モ沿岸貿易ト看做サザルコトヲ得 (Navigation Act, 1912—1920, ss. 7, 288.) 故ニ連邦航海法ニ依レバ特ニ連邦總督ニ於テ除外スルニアラザレハ我郵船ハ横浜ト「メルボルン」間ノ航海ノ途上「ブリスベーン」ヨリ「シドニー」(乗客ヲ運送スルコトヲ得ザルニ至ルヘシ而シテ最近ノ交渉ニ見ルニ目下ノ処我

スヴィル」、「シドニー」、「メルボルン」、「アデレード」等ノ間ニ旅客ノ運搬ニ從事シ居リタル趣ナルガ現今ノ狀態ハ前述ノ如シ

第四節 関 税

第一 日英通商条約ノ規定

関税ニ関シテハ日英条約ハ其ノ第七条ニ於テ輸入税並輸入禁止及輸入制限ニ関スル最惠國待遇ヲ規定シ第八条ニ於テ輸入税ノ協定ヲ規定ス

第二 濠洲法令ノ規定

濠洲関税法ハ目下臨時調査部ニ於テ調査中ノ由ナレハ同部調査書ノ完成ヲ待チテ参照セラレタシ

第三 本件交渉中ノ問題

在「シドニー」清水総領事ハ日英条約第八条ノ規定ヲ以テ濠洲ノ同条約加入上ノ障害タルヘシト思考シ外務大臣ニ報告シテ曰ク「本件ニ関シ通商上最も重要ニシテ交渉上至難ナルハ日英条約第八条所定ノ関税協定ナリトス濠洲関税率法ハ英國ノ產物或ハ製造物ニ限り一定ノ条件ノ下ニ特惠関稅ヲ許スノミニシテ之ヲ加奈陀、新西蘭ノ如キ姉妹領域ニ及ボサンコトハ年來ノ宿望ナルモ是サヘ未ダ成立ニ至ラズ

其ノ他ノ諸国トハ勿論何等ノ協定税率ヲ存セザルヲ以テ今
一國ト税率ヲ協定スルコトハ即チ其ノ他ノ諸国トノ協定ヲ
促進スル端緒ヲ開キ遂ニ本洲本来ノ国定税率ニ根本的變更
ヲ来ス恐アルカ故ニ協定ノ開談容易ノ業ニ非ズ云々」ト
然ルニ右ハ全ク杞憂ニ属セリ日英条約第八条ノ規定ハ決シ
テ本件交渉ノ障害トナルヘキ虞ナキヲ以テ其ノ旨外務大臣
ヨリ清水総領事ヘ指示セリ蓋シ(一)日英条約第八条ハ英本
国ニミ適用セラルヘキモノニシテ殖民地等ノ之ニ關係ナキ
コトハ其ノ字句上明ナルノミナラズ(二)英国政府ノ提議ニ依
リ日英条約第一条ノ解釈ヲ定ムルト同時ニ第八条ヲ将来日
英条約ニ加入スヘキ英国海外領地其他ニ適用セザルコトニ
取極メ當時日英兩國間ニ文書ノ交換ヲ了シ居リ(三)其ノ後加
奈陀加入ノ場合ニモ右取極ヲ基礎トシテ同条ノ加奈陀ニ適
用セラレザルコトニ関シ文書ノ交換ヲ了セリ

大正五年六月在英井上大使カ倫敦ニ於テ濠洲首相「ヒュー
ス」ト会见シタル際ニハ「ヒュース」ハ関税ノミニ関シ相
互ニ最惠国待遇ヲ保証スル単行条約ヲ締結センコト提議シ
タリ然レトモ其ノ後濠洲関税法ニ改正アリタルヲ以テ今日
ニ於テハ同問題ニ対スル濠洲当局ノ態度モ自ラ異ナル所ア

「ス」ハ之ニ列席スル為ニ大正五年前半期中英国ニ滞在セ
ルヲ以テ倫敦ニ於テハ我井上大使ハ英国外相「グレー」及
濠洲首相「ヒュース」ト談判シ濠洲ニ於テハ在「シドニ
ー」清水総領事ハ初メ濠洲首相「フィッシャー」ト談判シ
次テ新首相「ヒュース」ノ倫敦ヨリ帰ルヲ待チテ彼ト談判
スル所アリキ左ニ倫敦ニ於ケル交渉ト濠洲ニ於ケル交渉ト
ニ節ヲ分チテ其ノ經過ヲ概説スヘシ尤モ本件交渉中問題ト
為リタル日英通商条約ノ規定ト濠洲法令ノ規定トノ衝突点
ニ付テハ既ニ第二章ニ於テ之ヲ述ヘタルヲ以テ之ニ関スル
詳細ハ茲ニ之ヲ述ヘス

第一節 倫敦ニ於ケル交渉

大正四年一月外務大臣ヨリ在英井上大使ニ訓令ヲ発シ濠洲
ヲシテ日英通商航海条約ニ加入ノ決意ヲ為サシムル様英国
政府ノ好意的斡旋ヲ希望スル旨ヲ其筋ヘ申入レ篤ト懇談ヲ
遂クヘキヲ命セリ

在英井上大使ハ右訓令ニ基キ本多参事官ヲシテ極東課長
「オルストン」ニ面会シテ右訓令ノ要旨ヲ内談セシメ且右
訓令ノ要訳ヲ覚書体トシテ同氏ニ内送セシメタリ

大正五年三月在英井上大使ハ「グレー」外相ヲ訪問シテ右

ルヘシ

第五節 土地所有權及賃借權

第一 日英通商条約ノ規定

日英通商条約ハ其ノ第一条第四号ニ於テ家屋等ノ所有及賃
借並土地賃借ニ関スル内國待遇ヲ規定シ第五号ニ於テ動産
不動産ノ取得占有ニ関スル最惠国待遇ヲ規定セリ

第二 濠洲法令ノ規定

土地所有權ニ関シテハ各州ノ法律異ナリ「ヴクトリア」州
ハ内外國人ニ何等ノ區別ヲ設ケサルモ「ニュー、サウス、
ウェールス」、「クイーンズランド」、「南濠洲、西濠洲」、「タ
スマニア」及「ノーザン、テリトリ」ニ於テハ外國人ニ対
シテ制限スル所アリ

尚「ク」州ニ於テハ書取試験ニ依リテ一定ノ面積以上ノ土
地ノ賃借ヲ制限セリ

第三章 交渉経過概要

本件交渉ハ大正四年初ヨリ始マル同年一月外務大臣ヨリ在
英大使井上勝之助ニ次テ同年五月在「シドニー」総領事清
水精三郎ニ訓令ヲ発シ兩地ニ於テ夫々交渉ヲ行ハシム恰モ
其ノ翌年倫敦ニ於テ英帝國會議開催セラレ濠洲首相「ヒュー

訓令ノ次第ヲ縷述シ其ノ好意的考慮ヲ依頼シタルヲ以テ同
外相及殖民大臣ヨリ當時滞英中ノ濠洲首相「ヒュース」ニ
説キ込ム所アリ同月中井上大使ハ再ヒ「グレー」外相ニ面
会シタルガ其ノ際「グレー」ハ濠洲首相ハ濠洲ノ日英通商
条約ニ加盟ニ全然反対ナルニハアラザレドモ同首相ニ於テ
本件ヲ濠洲政府ニ転送スルニ先チテ予メ左ノ四点ニ付日本
政府ノ同意ヲ得ンコトヲ希望シ居レリト述ヘタリ即チ
(一)日本政府ニ於テ日本移民ヲ濠洲ニ送ラザルコトニ関シ濠
洲政府ノ満足スヘキ保証ヲ与ヘラルコト

(二)日本船舶ハ濠洲ニ於テ沿岸貿易ニ従事シ得ザルコト

(三)関税ニ関シテハ最惠国待遇主義ヲ採用スルコト

(四)日英条約所定ノ加盟期間ハ既ニ終了セルヲ以テ濠洲ノ加

盟ハ別ノ *Brevet* ニ依ルノ外ナキカ右加盟ノ *Brevet* ハ
總テ濠洲連邦立法部ノ同意ヲ得ルヲ要スルコト

同年五月在英井上大使ハ再ビ「グレー」外相ト会见ヲ遂ゲ
タルガ「グレー」ノ語ル所ニ依レバ濠洲首相「ヒュース」
ハ濠洲ガ日英条約ニ加盟セバ其ノ結果トシテ現行連邦法律
ノ改正ヲ要スルモノ幾多アリ而モ現在ノ移民法以上ノ程度
ニ濠洲ノ門戸ヲ開放スルコトハ到底同連邦國論ノ承認セザ

ル所ニシテ本条約加盟ノ件ハ到底連邦議會ノ協賛ヲ得ルノ見込ナキヲ以テ本条約加盟ノ儀ハ廃案トシ之ニ代フルニ日濠間ニ濠洲移民法ニ影響セザル範圍内ニ於テ相互ニ最惠國待遇ヲ保証スル旨ノ単行条約ヲ締結スルコトトシ度シト述ヘタル趣ナリ翌月井上大使ハ英國外務省ニ於テ濠洲首相「ヒュース」ニ会见シ首相ノ提議タル最惠國待遇ハ単ニ関税ニ限ラルル趣旨ナリヤト問ヒタルニ一般ノ解釈ニ從ヒ関税ノミノコトノ積リナリト答ヘタルヲ以テ井上大使ハ元來我方ニ於テ日濠間ニ条約關係ノ成立ヲ望ム趣旨ハ主トシテ日本人カ現ニ濠洲ニ於テ受ケツツアル營業居住旅行等ニ関スル種々不利ナル制限ヲ撤去セントスルニアリ果シテ貴説ノ如クセハ我方ノ目的ハ達セラレザル次第第二付費案ノ通ニテハ到底我方ニ於テ同意不可能ト思考スト述ヘタル処「ヒュース」ハ日本ノ立場ハ自分ニ於テハ十分之ヲ諒トスルモ今日濠洲ニ於テ營業及居住ニ関シ日本人ニ全然自由ノ權利ヲ与フルコトハ現ニ法規上許サザル所ナルノミナラズ又濠洲政府從來ノ國是ニモ影響ヲ及ボス重大ノ問題ナルヲ以テ同僚及議會カ果シテ之ヲ容ルルヤ甚覺束ナシ、私見ニ依レハ日本人ノ自由旅行ニ對シテハ敢テ故障ナカルヘク他國人ニ

對スルト同様ノ待遇ヲ与フルコトハ異議ナキモ居住營業ニ至リテハ從來ヨリモ一層門戸解放主義ヲ採用スルコトハ頗ル困難ト思考ス濠洲ノ議會政治ハ英國ヨリモ一層「デモクラチック」ニシテ自分ノ意見ノミニテハ如何トモスベカラズ政府議會ノ意見ニ顧ミテ説ヲ下セハ貴邦ノ希望ニ全然応諾シ得ルノ見込ハ遺憾ナガラ最少ト云ハザルヲ得ザルモ自分ハ近日出発歸國スヘキニ付他日歸國ノ上ハ尚同僚トモ篤ト協議ノ上如何ナル程度マテ讓歩シ得ルヤ精々尽力スヘシト述ヘタリ

第二節 濠洲ニ於ケル交渉

本件ニ関スル交渉ハ大正四年初ヨリ先ツ在英井上大使ニ訓令ヲ發シテ英國政府ニ對シテ之ヲ行ハシメタルコト前述ノ通ナルガ本件ハ表面上ハ英國政府トノ交渉ナレトモ主トシテ濠洲政府ノ意向如何ニヨリ決定スヘキヲ以テ帝國政府ハ在「シドニー」清水總領事ニ濠洲政府ニ對シテ交渉ヲ為サンコトヲ訓令スル所アリ偶々同年六月我練習艦隊ガ「メルボルン」ニ寄港シ濠洲官民ノ款待ヲ受ケタルヲ以テ清水總領事ハ此ノ機ヲ利用シテ日濠交歓運動旁々条約加入運動ヲ試ミタリ即チ先ツ首相「フィッシャー」ニ面会シ「日濠間ニ

通商航海条約ナキ為ニ日濠間ノ通商ノ發展ヲ阻害スルノ虞アルコト」濠洲當時ノ輿論ナル敵國通商ノ禁遏殊ニ独逸品消費ヲ根絶セントスルノ運動ヲシテ戦後ニ繼續セシメ独逸民族ノ經濟的復活ヲ防止セント欲セハ我國トノ通商關係ノ密接ノ基礎ヲ建ツルコト目下ノ急務ナルコト及「濠洲ノ日英通商条約加盟ハ日英同盟ヲシテ鞏固ナラシムルモノナルコト等ヲ述ヘテ濠洲ノ日英通商条約ニ加入センコトヲ勧誘シ次テ外相「マホン」ニ面会シテ同様ノ勧誘ヲ試ミタリ大正五年一月清水總領事ハ新首相「ヒュース」ニ会见シ其ノ意向ヲ尋ネタルカ同首相ハ通商航海關稅等ニ関スル条約ハ戦後ニ於テ一大革新ヲ要スヘク之ニ関シテハ主トシテ英國政府ノ意見ニ依ルヘキ次第ナルモ右ノ意見ハ戦争ノ成績如何ニ依リ定ムルノ外ナク未タ之ヲ考慮スヘキ時期ニ達セザルヲ以テ日本ニ對シテモ暫ク其ノ商議ヲ見合セ度シト述ヘタリ

其ノ後「ヒュース」ハ英帝國會議列席ノ為渡英シタルヲ以テ在英井上大使ハ倫敦ニ於テ彼ト交渉スル所アリシガ大正五年八月「ヒュース」ハ帰濠シタルモ強制兵役問題ニ関シテ「ヒュース」内閣危殆ニ瀕シ首相ハ多忙ヲ極メタルヲ以

テ清水總領事ハ彼ト篤ト交渉スル機會ヲ得ザリシガ大正五年十二月羊毛讓受事件交渉ノ為首相ニ会见シタル序ヲ以テ本件ニ言及シ貴官ノ倫敦ニ於テ井上大使ト会谈ノ際濠洲カ日英条約其ノモノニ加入センコトヲ望メル我邦ノ希望ヲ全然応諾シ得ルノ見込ハ遺憾ナカラ最少ト云ハザルヲ得ザルモ他日歸國ノ上ハ尚同僚トモ篤ト協議ノ上如何ナル程度マテ讓歩シ得ルヤ精々尽力スヘキ旨申出デラレタル趣ナルガ其ノ後ノ進行振如何ヲ伺ヒ度シト尋ネタル処首相ハ関稅ニ関スル最惠國條款ノ單行条約ナレバ之ヲ締結シ得ヘキモ日英条約其ノモノニ加入ノ儀ハ到底議會ノ協賛ヲ得難キ事情ハ井上大使ニモ明言セル通ニテ況ンヤ其ノ後當國ニ於ケル政況ハ御承知ノ通ニテ一層ノ困難ヲ加ヘタレバ差当リ到底望ナキ儀ト承知セラレ度シト述ヘタリ

大正六年五月總選舉ノ結果政府党大多數ヲ制シ「ヒュース」内閣ノ基礎確立シタルヲ以テ清水總領事ハ六月「ヒュース」ガ「シドニー」ニ出張シタルヲ機トシテ面会シ先ツ總選舉ニ於ケル成功ニ祝意ヲ述ヘタル後「戦争開始以來發展シタル日濠貿易ノ良好ナル關係ヲ持續改善スルノ希望」日英同盟ノ活動即チ兩國ノ共同作戰ニ基キテ増進セル濠洲人ノ對

日感情ヲ鞏固ナラシムルノ望マシキコト等ヲ陳述シ此等ノ希望ヲ達成スルノ一大手段ハ濠洲ガ日英通商条約ニ加入スルニアルヘキコト等ヲ説キ勧誘ニ努メタルニ首相ハ(一)英本国及属領地ト外国トノ関係ハ戦後ニ於テ一大革新ヲ要スルコト及(二)日濠間ニハ差当リ協定ヲ要スル案件ナキコトヲ理由トシテ本件交渉ハ後日ニ譲ルコトトシ度シト述ヘ且倫敦ニ於テ井上大使ニ挨拶シタル趣意ヲ繰返シ陳述シ清水總領事ノ主張ニハ深く顧慮セザルヤノ氣勢隠見シタルヲ以テ同總領事ハ依テ案ズルニ同氏遠耳ノ宿痾ハ其ノ後一層相募リタルモノノ如ク或ハ同官ノ言説ヲ十分ニ聴取シ得ザルヘキ様推察セラレタルニ付暫ク再会ヲ期シテ相分レ更ニ前陳ノ趣旨ヲ書面ニ作製シテ七月三日首相ニ手交シタリ(大正六年七月十七日附機密公第十六号在「シドニー」總領事清水精三郎來信参照)

第四章 彼我ノ意向

上來摘録セル彼我交渉ニ表ハレタル文言ヨリ察シ得ル限ニ於テハ交渉當時ニ於ケル帝國政府ノ希望及之ニ對スル濠洲側ノ意向左ノ如シ

第一節 帝國政府ノ希望

ルコトハ到底連邦國論ノ承認セザル所ナリト言ヒ或ハ英本国及属領地ト外国トノ關係ハ戦後ニ於テ一大革新ヲ要スヘキヲ以テ未タ本件ヲ交渉スルノ時機ニアラズト言ヘリ

第五章 新西蘭ニ對スル交渉

濠洲ノ日英通商条約加入方勧誘運動進行中大正五年七月在「シドニー」清水總領事ヨリ外務大臣ニ對シ新西蘭勧誘方ニ関シ稟申スル所アリ即チ新西蘭ニ於テモ濠洲同様大戰開始以來對日感情頗ル良好トナリシヲ以テ此ノ際新西蘭ヲ勧誘シテ日英通商条約ニ加入セシメハ縱令我國トノ貿易額少キ新西蘭トノ条約關係自体ヨリ受クル直接ノ利益ハ多カラザルヘキモ新西蘭ノ加入ハ濠洲ノ加入問題ノ解決ニ有利ナル影響ヲ及ボスヘシト思惟セラルルヲ以テ此ノ際非公式ニ新西蘭政府ノ意向探索方取計ヒ度キ旨稟申シ來レリ仍テ是レマテ濠洲連邦ノ日英条約加入ヲ勧誘シタルト大体同一ノ方針ノ下ニ新西蘭ノ加入方ニ付先方ノ意向探索方取計フヘキ旨訓令セリ

然ルニ其ノ後新西蘭首相英本国ニ出張セル等ノ為ニ暫ク交渉開始ヲ見ザリシガ大正七年五月在「シドニー」清水總領事ハ新西蘭ニ出張シ首相「マッサー」及蔵相「ウォード」

帝國政府ガ濠洲ニ移民ヲ送ラザルハ多年採リ來リタル方針ニシテ假令条約關係成立スルモ右方針ヲ變更スルノ意思毫モナク若シ先方ニ於テ希望スルニ於テハ米國及加奈陀ノ場合ニ準シ濠洲政府ニ對シ移民問題ニ付相當ノ保証ヲ与フルモ差支ナシ帝國政府ノ希望スル所ハ濠洲ニ於ケル日本人ノ居住營業等ニ関スル制限ヲ撤廢セシメ欧米人ト均等ノ待遇ヲ得ンコトニ在リキ尤モ濠洲ノ現行法令ニ存スル諸種ノ差別的規定ニ付テハ帝國政府ハ条約加入後必スシモ之カ全部ノ改廢ヲ要求スルノ意思ナク此等ノ細目ニ関スル取極ノ形式及方法ハ交渉ノ進行ニ伴ヒ隨時考究スル者ナリキ而シテ帝國政府ハ世界大戰開始以前濠洲人中ニ存在シタル對日惡感情カ帝國ノ戰爭参加ノ結果大ニ緩和セラレ之ト同時ニ開戦以來日濠貿易ノ大ニ増加シタルヲ好機トシテ濠洲ヲ日英条約ニ加入セシメント勧誘シタルモノナリ

第二節 濠洲側ノ意向

然ルニ濠洲側ニ於テハ単ニ関稅ニ関シテ最惠國待遇ヲ保証スル条約ヲ締結センコトヲ肯ズルノミニシテ日本人ノ居住營業等ニ関スル制限ヲ撤廢スルヲ欲セズ而シテ其ノ理由トシテハ或ハ現在ノ移民法以上ノ程度ニ濠洲ノ門戸ヲ開放ス

ト会见シ日英条約加入ヲ勧誘シタルニ何等異議ナク多大ノ同情ヲ表示シ特ニ考慮ヲ加フヘキコトヲ約シタリト云フ而シテ同年七月倫敦ニ於テ再ビ英帝國會議開催セラルル筈ニテ右両氏ハ之ニ列席スル為渡英スル予定ナル旨清水總領事ヨリ報告アリシヲ以テ五月在英珍田大使ニ訓電ヲ發シ新西蘭ノ日英条約加入方ニ関シ英國政府ノ好意的斡旋ヲ求ムルト共ニ直接新西蘭首相及蔵相ニ会见ノ上懇談ヲ遂クヘキヲ命セリ此ノ訓電ニ對スル回答ナシ

大正八年一月在「シドニー」清水總領事ニ訓令ヲ發シ新西蘭ニ於ケル本邦人及本邦貨物ニ對スル差別的待遇ニ関スル数個ノ事項ヲ調査ノ上報告方ヲ命シタルモ之ニ對シ回答ナシ

第六章 結 論

以上述ヘ來レル所ヲ要約スレハ左ノ如シ

帝國政府ハ大正三年世界大戰勃發以來濠洲ニ於ケル對日感情ノ良好トナリ且ツ日濠貿易額ノ増大セルヲ好機ナリトシ此ノ機ニ乘シテ濠洲ヲシテ日英通商航海条約ニ加入セシメント欲シ大正四年初ヨリ交渉ヲ開始シ在英大使及在「シドニー」總領事ヲシテ夫々其ノ任地ニ於テ当局ト会谈セシメ

交渉ハ大正六年七月マテ繼續セリ而モ帝國政府ハ從來濠洲ニ移民ヲ送ラザル方針ヲ取りタルヲ以テ濠洲ノ日英条約ニ加入スル曉ニモ此ノ方針ニ變更ヲ加フルノ意思ナキ旨ヲ特ニ予メ声明スル所アリ唯本邦人ノ濠洲ニ於ケル旅行、居住及營業等ニ関シテ欧米人ト均等ノ待遇ヲ得ンコトヲ主張シ或ハ日濠貿易ノ發展ヲ説キ或ハ日英同盟ノ利益ヲ唱ヘ勧誘大ニ努メタリト雖濠洲側ニ於テハ固ク白濠主義ヲ持シテ現在ノ程度以上ニ門戸開放スルヲ肯ゼズ単ニ関税ニ関スル最惠國待遇ヲ約スル条約ヲ締結スルノ意アルヲ示スノミニシ

テ其ノ他ノ点ニ付テハ帝國政府ノ提議ヲ殆ド取上ゲズ其ノ拒絶ノ表面ノ理由トシテハ現在ノ程度以上ニ濠洲ノ門戸ヲ開放スルハ同連邦國論ノ容レザル所ナルコト及英國及其ノ海外領土ト外國トノ關係ハ戰後ニ於テ一大革新ヲ要スルカ故ニ目下交渉ヲ開始スヘキ時機ニアラザルコトヲ挙ゲタリ尚本件交渉ノ進行中其ノ助成策トシテ新西蘭ヲ日英条約ニ加入セシメントシタルモ是亦何等ノ効果ヲ収メズシテ止メリ

(完)

事項九 「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件

一一八 一月十五日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

東洋人ニ対スル土地所有禁止法制定方請願ニ

関スル「ヴァーノン」農会決議ニ付報告ノ件

附屬書

一月十四日附浮田領事ヨリ「ブルウスター」首

相宛書翰写

ヴァーノン農会決議ニ於ケル東洋人ノ意義ニ付

注意喚起ノ件

公信第四号

(一月三十日接受)

大正七年一月十五日

在晚香坡領事 浮田郷次 (印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

東洋人ノ土地所有ヲ禁止スルノ法律制定方ニ

関スル「ヴァーノン」農会ノ決議ニ関スル件

本月十日付ヴァーノン通信トシテ当地ウオールド紙及ビクトリヤ、タイムス紙上ノ報道ニ依レハ「ヴァーノン」農会

(Vernon Farmers' Institute) ニ於テハ

「B、C、州内ニ於テ今後東洋人カ農業用土地ヲ所有ス

ルコトヲ禁止スルノ法律制定方ニ関シ当州政府ハ極力尽力スヘシ」

トノ請願ヲナスコトノ決議ヲ通過シタル趣別紙^(註)切抜ノ通り掲載有之候然ルニ客年八月中小官オカナガン地方視察旅行ノ際親シク実見セル処ニ依レハ「ヴァーノン」附近ニ於ケル本邦人農業者ハ極メテ少数ニ有之未タ土地ヲ所有スルカ如キ地位ニ達シ居ラズ白人側ノ氣受ケモ頗ル良好ニ有之(詳細客年八月二十五日付オカナガン地方視察報告参照)反之支那人農業者中ニハ野菜栽培等ニ於テ白人ト對抗セルモノ有之候ニ付右決議ハ主トシテ支那人農業者ノ發展ヲ阻害セントスルノ手段ニ出デタルモノト被存候得共現ニ「ケローナ」方面ニ於テハ邦人中土地ヲ購入シ果樹又ハ野菜類ヲ栽培シ其成績見ルヘキモノ有之尚ホ右ノ機運ハ当館ニ於テモ助長致度考ヲ有シ居ル位ニテ從テ事実上白人農業者ト競争ノ位地ニ立ツハ勢ヒ免カレザル処ニ有之「ヴァーノン」農会決議ノ趣旨ハ或ハ將來ニ於ケル邦農ノ發展ヲモ併セテ防止セントスルニアルヤヲ知ルヘカラズ何レニセヨ州内各